きもの文化の伝承をめざしたゆかたの着装を含む授業の提案

○大矢幸江（東京学芸大学大学院生）
薩本弥生（横浜国立大学）

抄録：**目的**　2006 年の教育基本法の改正では、日本の伝統と文化を尊重し、国際社会での役割や態度等を育てる目標が示された。それを受け、中学校の家庭科の学習指導要領では、「和服の基本的な着装を扱うこともできる」が盛り込まれた。そこで中高校生にゆかたの着装を含む授業実践を行い、きもの文化への興味関心や理解に対する共通点や違いを明らかにし、ゆかた着装後の授業で何を扱うか提案することを研究の目的とする。

方法　平成 25～26 年に附属中 1 年生 134 名、公立中学 2 年生 154 名、県立高校 2 年生 221 名、県立高校 3 年生 21 名、公立中学 1 年生 132 名の計 662 名を対象にゆかたの着装を含む授業実践を実施し、授業前後でアンケート調査を行う。アンケートの分析や教員へのインタビューから、きもの文化への興味関心を高めるのに効果的な授業提案を行う。

結果　中学・高校の共通点として、きもの文化への興味関心は伝統文化への興味や経験と関係が深いと示された。中学生は学年が低いほど落ち着きがなく理解度は低いが、ゆかたを着ていつもと違う自分を発見したようなので、ゆかた着装後の授業では、まずは理解習得よりも体験重視による内容が有効であると提案した。一方、高校生は精神的に成長度が高く自分の着つけの評価もしていた。ゆかたの理解からきもの文化や構成面の学習など、より深い内容への学習へつなげ主体的に発表したりテーマを決めて調べたりすることが提案できると結論づけた。